

横須賀市天神島臨海自然教育園 から得られた ホシダカラ亜成貝の記録

萩原清司*・小長谷美沙*

Record of subadult of *Cypraea* (*Cypraea*)
tigris collected in the Tenjin-jima Marine
Biological Garden, Yokosuka City

HAGIWARA Kiyoshi* and KOHASE Misa*

キーワード：軟体動物，タカラガイ科，三浦半島，
天神島，分布
Key words : mollusca, Cypraeidae, Miura Peninsula,
Tenjin-jima, distribution

ホシダカラ *Cypraea* (*Cypraea*) *tigris* Linnaeus, 1758 は、インド-太平洋の熱帯～温帯域に分布する軟体動物門腹足綱盤足目タカラガイ科の巻貝で、サンゴ礁域を主たる生息地とし、三浦半島を分布北限としている(池田, 1995, 1996, 2017; ネイチャーウォッチング研究会, 2009; 奥谷, 2017)。

これまで、三浦半島の相模湾岸からは、冬季に殻口の唇部が未形成の本種幼貝がしばしば観察されていたが、成貝や亜成貝の記録はなく、季節来遊型の出現をするものと考えられている(池田, 1995, 1996)。今回、横須賀市自然・人文博物館付属天神島臨海自然教育園(横須賀市佐島地先)において、三浦半島からの初記録となるホシダカラ亜成貝の貝殻が採集されたので、個体および採集時の状況について報告する。

本報告の計測値は横須賀市博物館軟体動物資料(YCM-H)による。また、本文中の各部位の名称、計測方法はネイチャーウォッチング研究会(2009)に従い、計測にはデジタルノギスを用いた。

本報告をまとめるにあたり、供試標本の収集に協力いただいた天神島臨海自然教育園臨時職員(当時)の倉田 優氏、三浦半島のタカラガイ類について貴重な文献資料の提供と助言をいただいた三浦郡葉山

町「貝千種 池田屋」の池田 等氏に感謝の意を表する。

供試標本及び記載

○ホシダカラ *Cypraea* (*Cypraea*) *tigris* Linnaeus, 1758

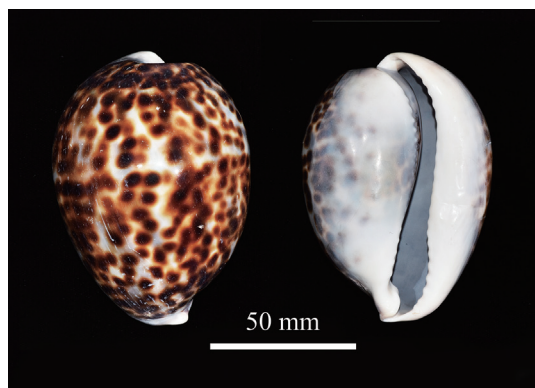
標本番号: YCM-H9947 (第1図), 1個体, 殻高 92.7 mm, 殻径 66.5 mm, 採集日 20200109, 神奈川県横須賀市天神島臨海自然教育園(北緯 35° 13' 16", 東経 139° 36' 16" : 第2図), 園内北側の砂浜に漂着した個体を拾得, 倉田 優採集。

供試標本は殻が肥厚し、殻口には内唇・外唇ともに歯が形成されつつあるものの不完全で、背面の斑紋は暗褐色の円斑が密に分布し、幼貝にみられる縦帯状に並ぶ斑紋はないことなどから、成長段階は亜成貝に相当すると判断された(池田, 2017)。殻の表面には死後についたと思われる傷が若干見られるものの、波浪による殻の摩耗や破損は見られず、死後まもなく採集されたものと考えられた。

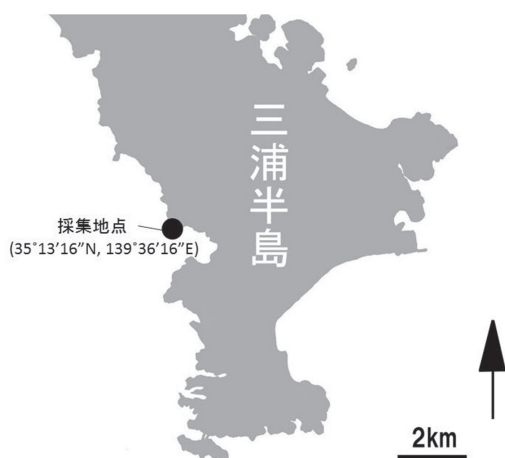
備 考

採集地点周辺の表層海水温は採集日の1ヵ月前には冬季水温低下が顕著となっており、表層最低水温は2019年12月7日には13.5℃、12月15日には13.0℃を記録し、12月の平均表層水温は15.7℃となっている(天神島臨海自然教育園, 未発表)。ホシダカラと同様の分布を示し、サンゴ礁域を主な生息地とした季節来遊型の出現をする魚類のトゲチヨウチヨウウオでは、冬季の海水温が13.5℃を下回ると死滅することが知られている(土田ほか, 2018)。ホシダカラの水温耐性については知見がないが、12月の水温低下が供試個体の死亡をもたらしたと仮定すると、トゲチヨウチヨウウオと同様な水温耐性を有する可能性を示唆していると考えられる。また、三浦半島ではこれまで幼貝のみの出現しか確認されていなかったホシダカラの亜成貝が見つかったことは、幼生期の分散によって三浦半島にたどり着いた本種が、低水温で死滅するまでの生存・成長する期間が長くなったことを意味する。近年の温暖化や黒潮の大蛇行による海水温の上昇が本種の成長に影響を与えていることが推察された。

* 横須賀市自然・人文博物館 〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台 95
原稿受付 2020年10月1日 横須賀市博物館業績 第758号



第1図 ホシダカラ *Cypraea* (*Cypraea*) *tigris* Linnaeus, 1758, YCM-H9947. 左:背面. 右:腹面(底面).



第2図 採集地点図.

引用文献

- 池田 等 1995. 三浦半島のタカラガイ (1). 32ページ. 葉山しおさい博物館.
 池田 等 1996. 三浦半島のタカラガイ (2). 32ページ. 葉山しおさい博物館.
 池田 等 2017. タカラガイブック (改訂版). 214ページ. 成山堂書店.
 ネイチャーウォッチング研究会編 2009. タカラガ

- イ 生きている海の宝石 207種 日本と世界のタカラガイ. 240ページ. 誠文堂新光社.
 奥谷喬司編 2017. 日本近海産貝類図鑑 (第二版). 1375ページ. 東海大学出版部.
 土田修二・三浦正治・瀬戸熊宅見・渡邊裕介・吉野幸恵 2018. 沿岸性魚類 14種の温度耐性. 海生研研報, (23): 69-73.